

秋田県市町村未来づくり協働プログラム

小坂町プロジェクト「明治百年通りにぎわい創りプロジェクト」における 事後評価調書

1 プロジェクトの目的

交流人口の拡大による地域の活性化を図るため、廃線となっている旧小坂鉄道施設等を活用した「小坂鉄道レールパーク」を整備するとともに、明治百年通りに町民と観光客がふれあえる場として「交流促進施設」を新設し、既存の産業遺産や「あきたエコタウンセンター」「小坂鉱山」等のエコタウンツアーと組み合わせた「まちなか観光」の推進を図る。

また、これらと十和田湖や道の駅等の観光資源を組み合わせた観光商品を造成するなど、十和田八幡平観光エリアの滞留型観光拠点の形成を図る。

2 プロジェクトの概要

策定年月日	実施期間	小坂町 事業費 (千円)	交付金 (千円)	県事業費 (千円)	総事業費 (千円)
		A		B	A + B
平成 24 年 12 月 25 日	H24 ～ H28	882,673 (931,567)	200,000	15,015 (17,670)	897,688 (949,237)

※（ ）内は計画値

【プロジェクトを構成する事業】

○小坂町事業群

事業名	総事業費 (千円)	うち交付金 (千円)	備考
「小坂鉄道レールパーク」の整備	348,844	120,000	H25 ～ H26
「交流促進施設」の整備	179,454	77,990	H25 ～ H28
広域観光ルートの確立	21,530	2,010	H25 ～ H28
関連事業他費 (都市再生整備計画事業)	332,845	0	H24 ～ H28
計	882,673	200,000	

○県事業郡

事業名	総事業費 (千円)	うち交付金 (千円)	備考
北東北三県と連携した観光振興	11,618	0	H25 ～ H28
「まちなか観光」への誘客	1,782	0	H25 ～ H28
鉄道のまちづくり実践者による セミナー開催	1,615	0	H25 ～ H28
環境教育旅行の誘致	—	—	H25 ～ H28
計	15,015	0	

※「環境教育旅行の誘致」事業の事業費は「『まちなか観光』への誘客」事業に含む

3 プロジェクトの成果指標と達成状況

指標名	基準値	目標値 (28年度)	実績値	達成率
「明治百年通り」の観光客数	142,868 人 (H22)	180,000 人	121,644 人 (H28)	68%
「活気がある」と感じる 町民割合(町民アンケート)	15.4 % (H21)	30.0 %	9.3 % (H29)	31 %
「小坂鉄道レールパーク」 体験入場者数(機関車体験運転、レールバイク、観光トロッキに限る)	なし (H24)	12,000 人	11,504 人 (H28)	96%

4 住民アンケート調査の結果

成果指標に「活気がある」と感じる町民割合とあるが、基準値も下回った。属性別には大きな違いはないが、年代別では年配の方ほど活気があると回答する傾向にあり、60歳以上が30歳未満に比べ2.00%高い。

明治百年通り周辺に限った活気の度合いではなく、町の全体の活気についての回答であり、活気があると思わない方が増えたからと言ってこのプロジェクトの意義が問われることはないを考える。

町では平成29年3月に小坂町観光振興計画を策定しているが、その中で観光に対するイメージ及びニーズを把握するために東北6県・関東1都6県の居住者に対しインターネットによる調査を実施している。それによると町来訪経験者に対する町への満足度を聞いたところ、7割近くが満足と回答している。また、町への再来訪意向は満足度と同様に高く、6割以上がまた行きたいという意識を持っていることがわかった。

5 経済波及効果分析等

小坂町「明治百年通りにぎわい創りプロジェクト」における経済波及効果は、①ハード事業費支出による効果（12億1,300万円）、②来場者の消費支出による効果（1,900万円）を合わせると、合計12億3,200万円であったと推計される。

（単位：百万円）

	直接効果	一次波及効果	二次波及効果	総合効果
①ハード事業費支出による経済波及効果	783	249	181	1,213
②来場者の消費支出による経済波及効果	12	5	2	19
合 計	795	254	184	1,232

6 民間アドバイザーの意見

○地域遺産プロデューサー 滋賀県長浜鉄道スクエア 名誉館長 米山 淳一

今回のプロジェクトにより、街が綺麗になり、非常に気持ちが良く、歴史的空間として華があるようになった。特徴のあるまちづくりであり、他に例を見ないものになったが、持続可能なまちづくりを今後も楽しく、明るく続けて欲しい。

プロジェクトで街中に設置した情報板は少し堅い印象を受けた。まち歩きパンフレットを今後作るようだが、そのパンフレットとリンクさせると良い。

プロジェクトで整備したものではないが、関連するものとして、小坂鉄道レールパークに設置している「ブルートレインあけぼの」がある。かつて上野駅から青森駅間を運行していた寝台特急車両「あけぼの」を宿泊施設として活用しているものであるが、試みとしては面白いが、居住性は時代に合わない。また、今後も継続するには維持費用の確保が課題である。今後の展望も含めて、改めて今後の必要経費を算出してみる必要がある。

○小坂鉄道保存会 会長 千葉 裕之

町の施策は先進的であり、地域の活性化に繋がっている。

現在、小坂鉄道レールパークの運営に携わっているが、接客する中で利用者の生の声を聞いていると、今後も一定レベルのサービスは維持しないといけないと感じる。

最近、小坂鉄道レールパーク利用者の年齢層が下がったように思うが、レールバイクやトロッコを楽しんだ後に楽しむものが無く、すぐに帰ってしまうため、滞在時間を延ばすことが今後の課題である。

「ブルートレインあけぼの」は宿泊者を楽しませるためにパーク内で動かしてもいいが、動かすことで維持費用はさらに掛かってしまう。また、老朽化も進行していることから利用できるのはあと3年程度と考えており、小坂鉄道レールパークの目玉として次の案を考えないといけない。個人で車両を保有している人は意外と多いが、中には処分したい人もいるため、それを引き取っても良いだろう。

ラッセル車の運転体験は好評ではあるが、儲けには繋がっていないため、工夫が必要である。

7 その他参考となる事項

本プロジェクトが開始した平成 23 年度における「明治百年通り」の観光客数は、東日本大震災の影響もあり、118,415 人まで落ち込んでおり、それに比べると平成 28 年度は 121,644 人であることから 3,229 人の増となる。これは本プロジェクトにて整備した小坂鉄道レールパークおよびにぎわい拠点（赤煉瓦にぎわい館）の整備が大きく寄与したものと考えられる。

8 全体評価

明治百年通りの観光客数については、東日本大震災等の影響もあり、平成 25 年度に 11 万人まで落ち込んだ後、平成 28 年度には 1 万 1 千人増加し、12 万 1 千人まで持ち直している。

また、小坂鉄道レールパークについては、平成 26 年度の新規開園後、初年度から 1 万 3 千人の入場者数を記録し、平成 28 年度には 1 万 8 千人にまで伸ばしており、小坂町における新たな観光需要を生み出すことができた。

このように、本プロジェクトの実施により明治百年通り周辺に賑わいが創出され、このエリアを中心とする地域の活性化に寄与しているものとする。

9 今後の推進方針

民間アドバイザーの意見や全体評価を踏まえ、次のとおり推進する。

（1）回遊性の向上について

鉾山の歴史を紹介した情報案内板、明治百年通りに設置されているモニュメントなどは全て小坂鉾山や明治を基軸とした物語に基づいて設置している。それを有機的につなげていくためのパンフレットの作成などにより、人びとが街を歩く姿を増やしていく。

（2）持続可能な観光地の構築

鉄道遺産を含めた歴史的遺産を後世に残していくため、クラウドファンディングなどの積極的活用や、新たな体験メニューの構築などにより稼ぐ力を強化し、持続可能な観光地を目指す。

（3）愛されるまちづくり

どちらかと言えば行政主導で事業を行ってきたが、小坂まちづくり株式会社や小坂鉄道保存会などを代表とする民間団体の連携を密にし、より多くの町民や小坂町ファンなどと共に歩んでいくまちづくりを目指す。

【プロジェクトチーム構成員】

小坂町	建設課、観光産業課
県	都市計画課、観光戦略課、観光振興課、地域の元気創造課、鹿角地域振興局